



# 北海道価値創造 パートナーシップ会議 in 札幌 新たな北海道総合開発計画に向けて

国土交通省北海道局参事官  
国土交通省北海道開発局開発計画課

現在、国土交通省では、新たな北海道総合開発計画の検討を進めています。近年、人口急減・超高齢化、グローバル化のさらなる進展、大規模災害等の切迫などの時代の潮流の変化や、平成26年7月の「国土のグランドデザイン2050～対流促進型国土の形成～」のとりまとめなど、政府における重点的な政策課題の変化が見られます。これらを受け、平成28年春を目途に新たな計画を策定することを目指し、国土審議会北海道開発分科会及び同分科会の下に置かれる計画部会において、調査審議が進められているところです。

新たな計画の策定に当たっては、地域の方々の意見を踏まえながら立案作業を進めていくこととしています。この一環として、去る3月8日、太田国土交通大臣出席の下、北海道内において、食や農業、観光、地域づくりといった分野で活躍している方々の御意見を伺う「北海道価値創造パートナーシップ会議 in 札幌～新たな北海道総合開発計画に向けて～」(以下「本会議」という。)を開催しました。

本稿は、本会議の結果概要を御紹介するものです。

## 1 本会議開催の趣旨

平成20年に閣議決定された現行の北海道総合開発計画をめぐっては、平成24年に実施された中間点検後の情勢変化等を踏まえ、去る1月30日に開催した国土審議会(北海道開発分科会)に対し、「北海道開発をめぐる潮流の急激な変化を踏まえ、北海道の優れた資源・特性を活かし、我が国の課題解決に貢献するとともに、地域の活力ある発展を図るための、新たな北海道総合開発計画の策定について」諮問されました。

その際、平成28年春を目途に新たな計画を閣議決定できるよう、計画案の作成に必要な調査審議を進めることとされ、計画部会の設置が決定されるとともに、計画案の検討に際し、地域の方々等の意見を踏まえることとされたところです。

このため、北海道内各地域の課題解決や活性化に御活躍の方々から御意見等をお伺いし、新たな北海道総

合開発計画の立案に活かすとともに、地域づくりの関係者相互の協力関係の促進を図ることを目的として、本会議を開催することとしたものです。

**出席者**

(五十音順・敬称略)

阿部 千春	函館市縄文文化交流センター 館長
植村 真美	公益社団法人日本青年会議所北海道地区協議会 会長
折谷 久美子	NPO法人スプリングボードユニティ21 理事長
クリーン スザンネ	国立大学法人北海道大学 准教授
後藤田 実	上士別IT農業研究会 会員
佐伯 昌彦	佐伯農園代表・北海道指導農業者
坂本 昌彦	株式会社北海道ネイチャーセンター代表取締役社長
佐藤 太紀	株式会社エフエムもえる 代表取締役社長
田中 夕貴	株式会社紋別セントラルホテル常務取締役
西田 孝雄	北海道酒造組合 専務理事
林 克彦	北海道ガーデン街道協議会 会長
堀 安規良	株式会社ホリ 代表取締役社長

**2 本会議の概要**

**(1) 太田国土交通大臣挨拶 (要旨)**

- 国土交通省は、平成26年7月に「国土のグランドデザイン2050～対流促進型国土の形成～」を公表しました。それぞれのまちが人口減少・少子高齢化や大規模災害への備えなどが求められる中で、短期的な国土のグランドデザインではもうもたないということがあり、2050年を目指していこうというものです。
- それぞれのまちの人口減少・少子高齢化への対応となると、「コンパクト・プラス・ネットワーク」になるわけですが、そのみならず、個性ある都市と個性ある都市の「連携革命」といったことを大きな主軸にして、今回のグランドデザインを作りました。
- 観光ということからいきましても、外国の方が北海道に来られ、北海道で何を買うかという、北海道のおみやげだけでなく、日本のおみやげを買っていきます。都市と都市との「温度」が違うからこそ対流が起きますから、その対流を積極的に起こして

いき、2050年に向けてスタートしていきたいと考えています。

- 国土交通省では、国土形成計画<sup>※1</sup>を策定・推進していますが、状況変化が急激なことから、前倒しして策定し、発信をしていきます。
- 北海道については、北海道総合開発計画<sup>※2</sup>を前倒しして策定することになります。構造的にまちをどう形成するかという観点から、連携の場として、「北海道価値創造パートナーシップ」を作っていくことが大切だと考えています。
- 「未来に向けて北海道はこれで生きていく」という10年計画を、国交省のチームが北海道全体を回り、新たに策定したいと考えています。
- 我が国では今後5年でオリンピック・パラリンピック東京大会があります。東京オリンピック・パラリンピックまでの5年、ポスト東京オリンピック・パラリンピックの5年が平準化した巡航速度でいくという、落ち着いた流れをつくりたいと考えています。北海道においては、この5年、ポストオリンピック・パラリンピックの5年、そして、北海道新幹線が札幌まで来るという次の5年に向けて、「世界の北海道」を目指して、新たな計画を策定してスタートを切りたいと思います。
- 食も、まちづくりも、北海道は大きなポテンシャルを持っています。絶対にポテンシャルがありますから、それを活かして、新しいスタートを切っていきたいと思います。



※1 国土形成計画  
全国の区域を対象として、国土の利用、整備及び保全を推進するための総合的かつ基本的な計画（根拠法：国土形成計画法、現行計画：平成20年7月閣議決定）

※2 北海道総合開発計画  
北海道における資源を総合的に開発するための計画（根拠法：北海道開発法、現行計画：平成20年7月閣議決定）

## (2) 出席者による意見発表（要旨）

出席者の方々から、「新たな北海道総合開発計画の策定に向けての主な視点・論点」（国土審議会北海道開発分科会計画部会第1回会合配付資料）に掲げられた、「人が輝く地域社会」と「世界に目を向けた産業」をテーマとして、①御自身が実践されている分野での活動や取組の御紹介、及び②日頃の活動を踏まえた御意見を、を発言していただきました（以下は、②の御発言順に記載）。

### 林 氏

- 七つのガーデンをまとめ、「北海道ガーデン街道」という名称で取組を始めたのが平成21年。今では、道外からの来訪者が7割を占めるほどに成長しました。協議会形式で開始しましたが、会社形式でも利益を出せるようにしてきています。
- ガーデン街道のみにとどまらない広域的な連携による大きな周遊ルートづくりが大切です。
- 地方には、地域資源があり、人はいますが、中央とローカル、ローカルとローカルとを結ぶ人脈と情報が足りていません。国内外の豊富な経験を持つクリエイティブで危機意識のある人、連携をマネジメントできる人が必要です。
- 観光のイノベーションを中心に、地方創生のイノベーションの推進を支援する仕組みが必要です。

### 田中 氏

- 暮らしのほとんどを道路に依存する中で、行政と地域住民で取り組む、官民協働型道路インフラマネジメントを発足・推進しています。
- アジアからの観光客は、雪や流水に関心があるものの、冬季の移動に不安を感じる人が多いと感じます。
- 地元の人々が安心感を持って暮らしていなければ、笑顔でおもてなしをすることもできません。地域が輝けるような交通インフラの確保が必要です。医療、福祉、教育等、暮らしの条件が厳しい地方のまちにおいてこそ、交通インフラが果たす可能性や役割は

大きいと考えます。

### 坂本 氏

- 地域振興の取組の総論を考える人は多くても、地域に入って各論を具体的に動かす人がいません。
- 地域振興のアドバイザーに求められる取組は、おおむね、①地域内調整、②地域リーダーの育成、③ビジネス化するための課題整理と具体的な対処、④マーケットとのマッチング、⑤継続的なビジネスをするための対応、であると考えます。また、求められる能力としては、おおむね、①調整力、②関係法令や事業に必要な知識全般、③企画力（商品開発等）、④マーケットとの太いパイプ、⑤情報収集力、⑥実行力、であると考えます。
- 具体策をしっかり地道に実行できた地域だけが成功しています。

### 佐藤 氏

- 大手の書店チェーンを誘致する取組など、留萌周辺は市民力の水準が高いと考えています。意識の高い市民の方々を地域の実情を知っている行政が支援する仕組みがあって実現していることです。
- 市民が中心となり、道北最大級の吹奏楽合宿を継続誘致しています。高規格道路などのインフラ整備がなされているから実現できることです。
- 私たちは、「田舎であればあるほど面白いことができる」というマインドをつくるつもりで活動しています。総合開発計画もそこを意識してつくってほしいと考えます。主体性のある意識の高い方が地域に残り、更に面白い地域をつくることができます。

### 後藤田 氏

- 農業の効率化のために大区画化し、GPSを用いて正確な作業ができるよう、農業用無人トラクターの実証試験を進めています。
- 農業用無人トラクターは、天候に左右されず、少ない従事者で作業できます。実証実験で終わらせず、引き続き、安全面の検証などを続けていき、日本が農業機械の技術先進国となることを希望します。

### 西田 氏

- 現在のところ、日本酒の販売促進の取組のうち、消費者等への直接のPRと、飲食店の活性化の取組は、比較的うまく進んでいます。
- 酒造組合としては、さっぽろ雪まつりでの地酒の販売や、新千歳空港での地酒の試飲即売を行っています。しかし、外国人の方々へのおもてなしが、外国語の堪能なアルバイトに依存している状況で、来年の人材の確保に悩んでいます。
- 酒蔵や酒造の工場のスタンプラリーを北海道全体で企画・実施していますが、参加費用や交通アクセスの問題もあり、なかなか全道的な展開となっていません。

### 堀 氏

- 商品の製造に際し、北海道の素材をどう活かしていくか考えています。とりわけ、大学とも連携しながら、海外の方にも買っていただける商品づくりを進めています。
- 年齢ではなく、意欲のある方を雇用しています。人づくりは重要です。
- ゲートウェイである新千歳空港と、高速道路の利便性向上が重要です。
- 田舎だからできること、今だからできることを進めていきたいと考えています。

### 佐伯 氏

- 何をもって世界に冠たる北海道の価値とするか、生産性を上げて所得を増加させていくことなのか、暮らしやすさとしての価値を表現していくことなのか、議論することが必要だと考えます。
- 農業経営者の育成が今日的な課題です。専業農家の核となる農家をどうするのかという議論と、農業を楽しむ人の農業を分けて考えていただきたいと思います。
- 生産性を持った農業に変えていかないと、働く方を確保できなくなるのではないのでしょうか。
- 過酷な労働を強いるのではない形で、物流コスト

を下げしていく努力・工夫が必要と考えます。

### クリーン 氏

- 今までであったものを超えて、新しい付加価値をつくってブランド化する、様々な背景を持つ人材が一緒に事業として組むのは新規性があります。
- 北海道にしかなく、知名度がまだ低いものを活かした先駆的な取組をすることが望ましいと考えます。驚きの瞬間が付加価値となります。
- 仕事の仕方や余暇の過ごし方を考え直し、高いライフクオリティと競争力を目指すことが必要です。
- 若手の方など様々な方に対して提案できることを考えることで、雇用とまちづくりに至るのみならず、ローカルアイデンティティやイノベーションが増えてくるのではないのでしょうか。

### 植村 氏

- 日本青年会議所北海道地区協議会では、国際的な観点なども盛り込みながら、いろいろな地域とのつながり、新しい発想との出会いのきっかけの場所をつくってきています。
- 行政の職員や、地域の様々な団体の方々に参加していただきたいと考えています。

### 折谷 氏

- 地域協働で沿道の植栽活動を進めています。元気な高齢者の方々や小中高生など、幅広い分野の間の交流がうまれています。また、活動が評価されることで、地域への愛着も強くなってきます。
- 外国人の方々が安全安心に楽しめる環境づくりとして、インフラ・情報・言語・レンタカーシステムのさらなる整備充実、広域連携が必要です。
- クルーズ船来航時の「いかめし」のふるまいなど、おもてなしによって、言葉は通じなくても、お互いに心を通わせることができると考えます。

### 阿部 氏

- 縄文文化の遺産は海外でも関心が高まっており、オリンピック・パラリンピック東京大会に向け、新しい価値として情報発信する取組を進めています。

- 世界遺産、日本遺産、地域遺産など、文化遺産を連携させた北海道全体の観光振興が大切です。
- 文化遺産を自然や食文化と合わせ、地域の魅力として発信していく場が道の駅であり、その発信拠点の連携のあり方として、シーニックバイウェイ北海道を活用することが考えられます。

### (3) 意見交換 (要旨)

#### 出席者

「コンパクト・プラス・ネットワーク」について、北海道は本州等と違って都市間が離れすぎており、都市・生活サービスを維持するためには、この距離をどう埋めるかという視点で取り組んでいかないと難しいのではないのでしょうか。

#### 太田大臣

距離感が全然違うということからすると、「小さな拠点」を上手に使いながら連携していくことが考えられるのではないのでしょうか。

### (4) 太田大臣からの意見とコメント (要旨)

- 世界水準の価値として追求すべきは、世界へ打ち出していく価値、暮らしやすさの価値の両面があるのではないのでしょうか。



太田 昭宏 国土交通大臣

- クルーズ船が着いたときにまちが暗いと、クルーズ船の乗客はがっかりしてしまうと思います。昼と夜の両方がいいというまちはなかなかなくて、函館は昼・夜のいずれも良い珍しいまちです。ついに、来年の今頃には、北海道新幹線が新函館北斗駅まで開業します。この開業は、関東以北の人にとって、北海道の人が思っている以上の大きなインパクトがあると考えます。函館は来年が勝負です。初めて函館に行った人たちが、函館は夜景だけでなく朝市なども

あつて昼もいい、花もきれいだというインパクトは、今後の北海道の展開には非常に重要だと思います。

- 観光には、「見るもの・買いもの・食べもの」の三つが大切で、文化・伝統・歴史に海外の人々は非常に関心が強いと理解しています。函館の周辺は、単に景色がきれいなだけではなく、そうしたものがものすごくあります。新函館北斗駅の開業は非常に重要だと考えております。よろしく願いいたします。
- また、釧路港を国際バルク戦略港湾に選定していますが、水深14mの岸壁を整備すると、飼料が3分の2くらいのコストで入ってくることになります。一つ一つの動きのチャンスをどのようにとらえるかも重要です。
- 本日はいろいろな意見をいただき大変勉強になりました。しっかりとこれを取り込んでやっていきたいと思います。本日はありがとうございました。

#### おわりに

本会議をキックオフとして、今後、北海道内各地域で意見交換会などを開催し、地域で活躍する方々の御意見を伺いながら、来春を目途に、新たな北海道総合開発計画の策定を進めてまいります。

最後になりますが、御多忙中、熱心に議論いただいた出席者の皆様をはじめとする関係者各位に対し、厚く御礼申し上げます。

※ 新たな北海道総合開発計画の策定に向けた取組に係る資料等については、以下の国土交通省HPをご覧ください。  
[http://www.mlit.go.jp/hkb/hkb\\_tk7\\_000059.html](http://www.mlit.go.jp/hkb/hkb_tk7_000059.html)